

報告書

下記の通り講演会を開催しましたので、ご報告申し上げます。

記

1. 名 称 第6回「未来へのことだま」
2. 日 時 令和6年8月19日 16時30分～18時
3. 場 所 オンライン (zoom)
4. 講 師 中森農産株式会社 代表取締役 CEO 中森剛志様

5. 内 容

6. 内容

日本の農業は、さまざまな課題に直面しており、これらの問題に対処するためには迅速かつ効果的な対策が必要です。まず、農業従事者の高齢化が深刻な問題として挙げられます。現在、日本の農業従事者の平均年齢は高く、特に米農家の平均年齢が顕著に高いことが指摘されています。このまま進行すると、農業の持続可能性が危ぶまれます。特に2025年には「段階の世代」が後期高齢者に達し、農業からの引退が加速することが予想されています。この状況を改善するためには、若い世代の農業従事者を増やすことが急務です。

次に、農地の流動化が大きな問題として取り上げられています。2025年から2030年にかけて、多くの農地が所有者の引退などにより流動化することが予測されています。この流動化に対する対策としては、農地の集約化や事業体の規模拡大が求められています。これにより、農業の効率化や安定的な運営が可能になるでしょう。また、日本の食料安全保障においても課題が存在します。現在、日本は穀物の約8割を海外から輸入していますが、2040年代には需給バランスが最も崩れると予測されています。これに対抗するためには、国内農業の強化が必要です。国内の生産能力を高め、安定的な食料供給を確保することが、食料安全保障を実現する鍵となります。

さらに、地方の役割と人口分散の重要性も指摘されています。東京への一極集中が進む中で、地方での基幹産業として農業を再活性化することが重要です。農業の生産性を向上させ、農業従事者の待遇を改善することで、都市部から地方への人口分散を促進することができます。これにより、地方の経済が活性化し、地域社会がより持続可能なものとなるでしょう。東日本大震災の経験も、農業に対する取り組みの大きな転機となったとされています。震災を通じて、田舎のセーフティネットとしての役割

が強調され、農業が地域社会の安全保障において重要な役割を果たすことが再認識されました。この教訓を生かし、地域の安全と自立を目指す取り組みが必要です。

最後に、将来へのビジョンとして、農業の現場の生産性向上が日本の安全保障において重要な役割を果たすと考えられています。特に 2040 年に予測される食料需給ギャップに備えて、今から全国規模での取り組みを進めることが重要です。農業の現場での生産性向上は、国内の食料供給を安定させ、未来の安全保障を確保するための鍵となるでしょう。

このように、日本の農業は多くの課題を抱えており、その解決に向けた取り組みが急務であることが強調されています。各方面からの対応と努力が、農業の未来を切り開く鍵となるでしょう。

7. 所感

農大愛好会主催となる記念すべき第 6 回「未来へのことだま」の講師には中森農産株式会社 代表取締役社長 中森剛志氏にご登壇いただきました。

食料安全保障の確立を目的とされ、一貫とした事業活動に感心を受けました。

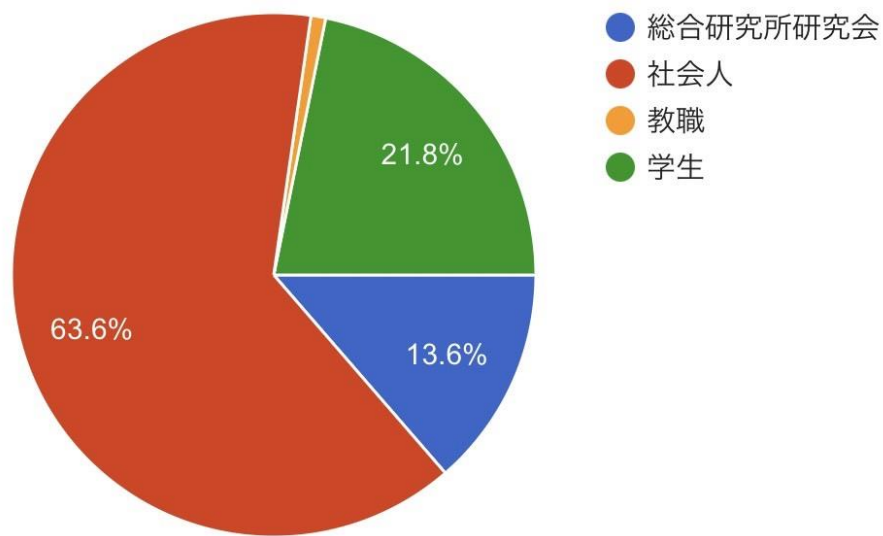
事業内容の中では、新規就農かつ見ず知らずの土地でスピード感を持った経営体制を構築されていた点も特徴的でした。

また、中森様の自分を信じて行動し続ける姿勢が印象的でした。周りの方から否定されたこと、厳しいお言葉を受けてもめげずに行動し続けてこられたことがどれだけ大変だったのか計り知れません。

こうして、事業について学べたこと、一種の経営者マインドも学ぶことができたことに感謝しております。

8. 参加者について

今回ご講演いただいた株式会社中森農産では日本の農業の課題は生産分野にあるとの確信から、食料安全保証の確立を目指し、「日本の農業に一生を賭ける」を合言葉に活動されてきた。今回も多数の農業関係企業からの参加がみられた。今回の改善点は、第 4 回に引き続き、学生の参加が多くみられたことだ。また、幅広い業種からの参加も多くみられた。本セミナーを、SNS を通して知っていただいた参加者がとても多く、引き続き本セミナーの SNS を活用した周知活動を徹底していきたい。そして、本セミナーが参加者にとって有意義なものとなるよう、これからも準備を進めていきたい。



最後に、本講演会開催に漕ぎつけることが出来たのは経営者会議様のご厚意、ご支援のおかげであります。改めまして心より感謝申し上げます。

以上